



30年 / 4月

四十四期

担当者
宮下 典夫

父に聞いた話

杉浦正孝 (成孝長男)

ある時父から「借行社は戦前は現役の陸軍将校から会費を集めて作った会社だった。戦後国が陸軍の財産と思つて全て没収した。其の後、私的財産であるとして返却の運動をしたところ、国防婦人会の土地建物を寄贈されて今の借行社の基礎が出来た」と言われました。当時の借行社は四ツ谷駅と市ヶ谷駅の間より少し市ヶ谷寄りに、中央線のわきの南側土手

の下に2・3階建ての建物(今の前田建設の当りかな)でした。当時の借行社は陸士の同期会の集合体の感じが強かったと思います。其の後、パブルが弾ける前後に、この土地建物を売却してそれを基金として今の場所を借りて継続することになりました。当時父は、靖國神社と折衝し、靖國偕行文庫の設立に係わり、「借

行社が収集保有した資料を保存管理してもらえる文庫ができるのが大変嬉しい」と言っていました。借行社は、戦前は現役陸軍将校の親睦・研鑽の会として、戦後は陸士同期会の集合体として、そして今は公益財団法人として、夫々、構成員・時代に合わせ変化して来たと思います。

現在、旧陸軍関連の資料等は、戦史史料室等、いろいろな場所にバラバラに残っているようですが、どこかに大日本帝国陸軍記念、資料館でも在つたら良いなと思います。本当は、防衛大学校に陸軍研究センターとでもいうのを作つて、継続的に資料の収集・分析・研究員の確保を行つて頂けるとありがたいのですが。

なお、本稿は父の話に伴う筆者の感想であり、内容の真偽については不明です。

四十八期

(卯月金) 担当者
衣笠 陽雄

蘭の栽培から父を想う

卯月会畑欽二長男・畑 邦夫

写真は平成28年6月の記事で紹介したバンダ(アスコセンダ)プリンセス・ミカサ・ブルーの今冬の姿です。三笠宮妃殿下に贈られた名花として1983年に登録された蘭で、アスコセンダ・ロイヤル・サファイア(交配種)にバンダ・セルレア(これは原種)を掛け合わせた交配種です。片親のバンダ・セルレアはインド、ビルマ(ミャンマー)、タイ、中

国南部の標高8百〜1千7百mに生息し、樹木に着生する蘭です。

野生のバンダ類は大きな木の上の方に着生し、長い根を木に貼付けて葉と茎を上へと伸ばしています。葉は数十枚になり、葉間から花茎を出して花が咲きます。根は数十cm以上の長さになるので、通常は株を吊るして根をむき出しにさせて育てます。生息地域は雨期と乾期がはっきり分かれる熱帯モンスーン気候で、雨が沢山降ったあとすぐに乾く環境です。例えば、ビルマのヤンゴンの気候は、年間の平均気温が27℃程で、年間降雨量が2m26cm程(東京はこの3分の2)です。

5月から9月が雨期で、大半の雨はこの期間に降ります。この環境に似せた状況を温室内で実現させることが栽培の要点だといえます。私は温室内に自動噴霧装置をセットし、朝夕に大量の水を散布しています。噴霧中の温室内にいると身体がビシビシになってしまいます。

父は岡山の第百五十四聯隊で、ビルマのインパール作戦に関わり、昭和20年7

月にシタン河を下り、ヤンゴン付近で8月の終戦を迎えています。こんなひどい気候の中を如何に人的損害を小さくできるかを踏つて、部隊を撤兵させるのに苦労したかが偲ばれる温室内です。

